

ジャンボタニシ対策について

○市ではジャンボタニシ対策として、ジャンボタニシ防除薬剤の購入費を一部補助します。
根絶するのは困難ですが、被害が発生しない程度にコントロールすることは十分可能です。本紙では、ジャンボタニシの防除について簡単にまとめておりますので、今後のジャンボタニシ対策のご参考にしてください。

1. 耕種の防除

- ①食害防止 ・移植時期（作型）を早める。
→水温が高くなると貝が活性化するため、水温の低い時期に移植すると被害は少なくなる。
・浅水管理をする。
→水深5cm以上で食害が増えるため、4cm以下の浅水管理を保つ。
※除草剤の効果が落ちる場合もあるので、代かき+中期一発処理剤へと処理体系を変える。
- ②成苗の移植 ・稲が5葉期を超えると食害が少ない。
→貝は柔らかく小さい稲を好むため、稚苗の被害が大きい。成苗を移植することで、貝が稲を水中に引きずり込むことができず、食害の軽減に繋がる。
- ③畑地化 ・畑地化し、冬期に小麦等を栽培する。

2. 科学的防除（登録されている防除薬剤一覧）

種類	商品名（例）	効果	剤の特性
メタアルヒド粒剤	スクミン ジャンボたにくん メタレックスRG粒剤	食害防止 殺貝	・誘引性 ・殺貝効果が高い ・効果持続性を高めた剤型あり ・食毒による効果
リン酸第二鉄粒剤	スクミンベイト3 スクミンブルー	食害防止 殺貝	・誘引性 ・有機JAS規格に適合 ・使用時期・回数に制限がない ・水に溶けにくく、多雨でも効果が見込める ・食毒による効果
チオシクラム粒剤	スクミハンター	食害防止	・徐放性による効果持続

3. 物理的防除

- ①捕殺 ・卵は水中では呼吸ができないため、水中に削り落とす。（できればすり潰す。）
※薄いピンク色の卵は、水中に落としても生き残る可能性があるため、確実にすり潰す。
・誘引効果が高く、効果が1週間続くミックス餌による誘引をする。
（沈下性コイの餌、米めか、米こうじ=1:1:1を30g）
※捕獲したジャンボタニシは確実にすり潰す。
- ②侵入防止 ・網目5mm以下の網を取・排水口に設置する。
※ゴミ詰まり防止のため、水路側にも粗めの網を設置すると良い。
- ③冬期の耕起 ・裏作に作物を栽培しない場合は、1月末～2月上旬に細かく耕す。
※土に潜って越冬している貝を寒波にさらす。また貝を傷つける。
※稲わらや切りわらの下は絶好の越冬場所となるため、必ずすきこむこと。
- ④発生源除去 ・水路の泥上げや雑草除去、卵塊除去等により、水田周辺の増殖を防ぐ。
※耕作放棄地化された水田にも注意をすること。

防除のスケジュール

対策実施時期		目的	対策の内容	注意点
9月 ～ 11月	収穫後	殺貝	石灰窒素処理	<ul style="list-style-type: none"> ・付近の作物へのガス害に注意する。 ・河川等へ飛散・流出しないよう注意する。
1月 ～ 2月		殺貝	厳冬期に耕起し、越冬中の貝を寒波にさらす。また、貝を傷つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく耕す。 ・数回行くと効果が高い。
10月 ～ 3月		殺貝	越冬場所である用排水路等の泥上げ及び清掃を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地化された水田に注意する。 ・地区全体で実施すると効果が高い。
4月 ～ 6月	移植時 ・ 水管理	殺貝	石灰窒素処理	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥量を減らす。 ・付近の作物へのガス害に注意する。 ・河川等へ飛散・流出しないよう注意する。
	移植後の 本田防除	食害防止	<p>早い時期に移植する。 移植苗は硬くて大きい苗が望ましい。 浅水管理（水深5cm以下）。 パダン粒剤を箱施用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被害が激しい場所での密播苗の使用は避ける。 ・本田防除にてスクミノンを施用する場合は、パダン粒剤の使用を避ける。（効果の相殺）
全期間			殺貝	<ul style="list-style-type: none"> ・貝は素手で触らないこと。 ・確実にすり潰すこと。

※あくまで参考です。薬剤等は決められた量と正しい使い方で施用するようお願いします。

菊川市 農林課 農業振興係 (TEL: 0537-35-0938)